

夢★きらめくに

No. 27

加東市／加東市人権・同和教育研究協議会 令和元年10月1日



加東市人権啓発講演会 令和元年8月31日開催 滝野文化会館

目次

- 特集「知ってください“性的マイノリティ”」… 2
- 加東市人権・同和教育研究協議会の活動… 3
- 人権標語・ポスター…………… 4～7
- 小学生の人権作文…………… 8～10
- 男女共同参画コーナー…………… 11
- 小中学校人権教育講演会・スキルアップ講座… 12
- 加東市人権ジュニアリーダー学級…………… 13
- 加東市企業人権教育協議会の活動…………… 14
- 加東市民人権講座・人権啓発講演会…………… 15
- 新着DVD紹介・悩みごとの相談先…………… 16

「みんなで 幸せを実感！」

人権教育推進員 土肥 貴雄

日常生活の中で、お互いの人権尊重について、自然に感じ、考え、行動されているでしょうか？

最近では、スマートフォンなどの普及と相まって、インターネット上で都道府県を超えて他人を誹謗中傷したり、個人の名誉やプライバシーを侵害したり、差別・偏見を助長するような情報を発信したりする事案が増えています。また、昨年度実施しました人権に関する市民意識調査結果によりますと、人権侵害の存在がうかがえます。

そこで、誰もがいやな思いをせず、市民みんなで幸せを実感できるために、身近なことについて、人権の視点から見つめ直し、感性を高め、行動につながるよう努めることが必要です。

そのためには、まず、機会あるごとに人権学習会（研修会）、講演会、講座等に参加して最新の正しい知識を得たり、人とのつながりを体験したりすることが大切です。

例えば、現在、住民学習が各地区で行われています。「DVD視聴や講演会等の人権学習」「三世代のふれあい活動」等、各地区で工夫して実施されています。

ぜひ、参加していただき、みんなでより一層幸せを実感できるまちなりにいきましょう。

「性は多様です」

知ってください。性的マイノリティ。『性の話』は、「人生の話」



おおた なおき
太田尚樹さん

編集者・ライター。LGBTエンタメサイト「やる気あり美」編集長。女性誌や文芸誌などで、さまざまなメディアで執筆するかたわら、スタートアップのブランディングや広報支援も担当。雑誌ソトコトにて「ゲイの僕にも、星はキレイで、肉はウマイ。」連載中。

加東市のみなさま、はじめまして。太田尚樹と申します。

私は今東京に住み、雑誌連載の執筆や編集の仕事をするかたわら、LGBT(性的マイノリティ)について楽しく知ってもらうことを目指したWEBサイト「やる気あり美(み)」というものを運営しています(変な名前ですみません…笑)。

実はこのたび、11月に加東市に講演でお邪魔することになり、今回この誌面で先にご挨拶する機会を頂きました。講演でお話しするのは「LGBTってなに?」という基礎的な情報についてから、私がいちLGBT当事者(ゲイ)として、これまでの人生で何を感じ、考えてきたか、までです。できるだけ、どのご年齢の方にも分かりやすくお話しするつ

もりですので、よければぜひ足を運んでいただければ幸いです。

さて、「LGBTについて話す」とお伝えした際によく言われることがあります。それは、小学生以下のお子さんをお持ちの親御様から頂く「うちの子にはまだ早い」という一言です。私が「どうしてそう思われるんですか?」と聴くと、多くの方は「まだ幼くて恋愛経験もないですし、ちょっと…」と言葉を濁されます。

それを聞くたびに私は「もしかして、LGBTの話は『恋の話・ベッドの上の話』だと思われていらっしやるのかな」と想像します。考えてみていただきたいのですが、皆さまにとって「男の話・女の話」というのは、「恋の話・ベッドの上の話」だけでしょうか。男もしくは女として生まれて、これまで皆さんにはど

んなことがあったでしょうか。そこには、その与えられた性だからその喜びや悲しみや、悩みや感動があったのではないのでしょうか。私も「ゲイ」として皆さんと同じような体験をこれまでしてきました。私は、「性の話」とは、決して「恋の話・ベッドの上の話」ではなく、「人生の話」だと思っています。

私の場合は、「ゲイ」という一つの性の形を持って生きることを、サポートしてくれる仲間や家族に恵まれましたが(今回も私の大学時代の先輩が講演に誘ってくださいました)、LGBT当事者の多くは、まだまだ様々な偏見や差別を受けながら、過ごしています。2018年の調査でLGBTの人口は11人に1人もいると分かりましたが、それは左利きの人口とほとんど変わらないということなんです。皆さんの周りにも、見えていないだけで、必ずいることになります。

なので、私は皆さんの気持ちをどこまで変えることができるかは分かりませんが、「ゲイ」である以前に、一人の人間として、一人の男として、皆さんに誠心誠意お話しするつもりでございますので、どうぞ当日はよろしくお願いいたします。皆さまにお会いできることを、心より楽しみにしています。

LGBTって??

LGBT
レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、それぞれの英語の頭文字からとった性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の総称です。

レズビアン (Lesbian) : 女性の同性愛者
ゲイ (Gay) : 男性の同性愛者
バイセクシュアル (Bisexual) : 両性愛者
トランスジェンダー (Transgender) : こころの性とからだの性と不一致

太田尚樹さんには11月30日土曜日開催する、加東市民人権講座で講演いただきます。

日時: 11月30日(土)午後7時30分から
場所: 東条文化会館
入場無料です

上半期の活動

加東市人権・同和教育研究協議会

役員について

5月21日の総会にて、近澤玉幸会長はじめ本年度の役員が承認されました。



本年度役員 (敬称略)	
会長: 近澤 玉幸	堂下 哲子
副会長: 古丸 剛	久野 勝久
会計: 大槻ゆかり	
監事: 松崎 年明	

主な事業

- ◆ 第1回理事会 (5月8日)
- ◆ 新旧理事による総会議案の検討
- ◆ 総会 (5月21日)
- ◆ 総会行事
- ◆ DVD視聴

専門部会

『君が、いるから』

住民学習推進部会

① 住民学習説明会・研修会

(5月23・24・28日)

今年度も住民学習をさらに充実するため、全地区を3つのブロックに分けて実施しました。

住民学習を地区全体の取組として実施していただくため、人権啓発推進員さんと区長さんに説明を行いました。

DVD『生きた童話を届けたい』を視聴し、部落差別の問題について研修を行いました。

② 住民学習会

DVD視聴や講演会等による人権学習



各地区で6月から1月にかけて、順次実施されています。

③ 助成金

- ◆ 基本助成: 1万5千円+地区の世帯数に応じた額
- ◆ 特別助成: 創意工夫し意欲的な取り組みに対する助成(今年度は4地区に押し助成しました。)



学校教育部会

今年度のテーマ

豊かな人権感覚を育む人権・同和教育の推進

地域と人との関わりを大切にしながら、発達段階に応じてどのように実践していくか

公開保育・授業

保育園・幼稚園班、小学校班、中学校・高校班で実施

椿山保育園

実施日: 11月

主題名: 「異年齢活動」

実施日: 10月

単元名: 「ハンナのなみだ」

【中学校】

実施日: 10月

単元名: 「プロレスごっこ」

団体別研修推進部会

加東シニアクラブ連合会

【社支部】 8月27日

【滝野支部】 8月29日

【東条支部】 8月30日

演題: 『加東市部落差別の解消の推進に関する条例』を知っていますか?

講師: 加東市人権教育推進員

藤原 正幸さん

昨年9月に施行された本条例の意義と部落差別の現状や新たな歴史認識を踏まえた差別解消への取り組みについて話されました。



関連事業

◆ 兵庫県人権教育研究大会
東播磨大会 (7月27日)

今年度は、加東市で開催され、市同教からは108名が参加しました。

2つの分科会で実践を発表していただきました。

【第3分科会】「進路・学力保障」

「互いに認め合い、支え合う」

入賞



東条東小学校 2年 宮本 菜々子



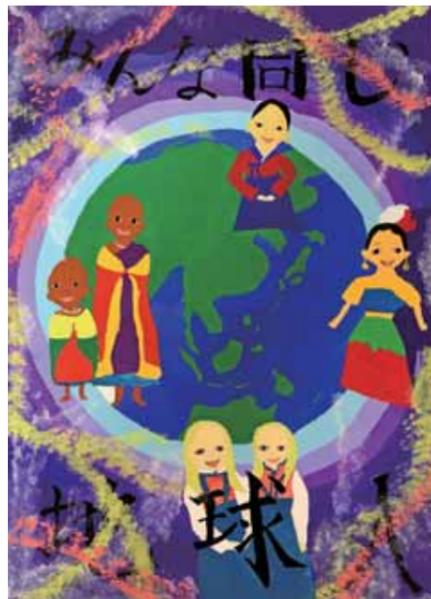
社中学校 3年 寺越 杏



社中学校 2年 小林 美咲



社中学校 2年 上山 結杏



滝野中学校 3年 西山 詩乃



東条中学校 2年 佐野 日夏子

入賞



福田小学校 5年 定松 謡



米田小学校 2年 河村 優作



三草小学校 2年 石井 佑奈



鴨川小学校 2年 松本 真玖



滝野東小学校 5年 民輪 仁志



滝野東小学校 5年 宮田 陽斗



滝野南小学校 5年 藤井 叶憧



東条東小学校 2年 黒田 夢生

男女共同参画コーナー

ご存じですか？ジェンダー・ギャップ指数

ジェンダーギャップ指数 (Gender Gap Index : GGI) は、各国の社会進出における男女格差を示す指標で、世界経済フォーラム (ダボス会議を開催する、世界の企業や団体が加盟する非営利の公益団体) が、各国を順位付けし、2006年から毎年発表しているものです。

ジェンダーギャップ指数は、①経済活動の参加と機会 (給与、雇用数、管理職や専門職での雇用における男女格差)、②教育 (初等教育や高等・専門教育への就学における男女格差)、③健康と寿命 (出生時の性別比、平均寿命の男女差)、④政治への関与 (議会や閣僚など意思決定機関への参画、過去50年間の国家元首の在任年数における男女差) の4つの分野で、国際労働機関や世界保健機関などの公的データを用いて算出され、指数は「0」が完全不平等、「1」が完全平等を意味します。

2018年の日本のジェンダーギャップ指数は、0.662。調査対象となった149か国のうち、110位でした。過去最低を記録した2017年 (144か国中114位) からは、若干順位を上げましたが、G7の中では依然最下位です。

日本が、他の国に比べて遅れているのは、政治参画の分野で、149か国中125位となっています (経済参画は117位、教育の到達度は65位、健康と生存率は41位)。政治参画の分野では、昨年制定された「政治分野における男女共同参画推進法」によって女性国会議員の増加に期待はできますが、女性大臣が増えなければ数値の上昇は見込めません。ただ、経済参画の分野は、順位は低いものの、「女性活躍推進法」の推進の効果があってか、指数は前年より改善しており、今後も女性の活躍が進めばより改善するものと思われます。

2018年の上位10位

順位	国	ジェンダーギャップ指数
1	アイスランド	0.858
2	ノルウェー	0.835
3	スウェーデン	0.822
4	フィンランド	0.821
5	ニカラグア	0.809
6	ルワンダ	0.804
7	ニュージーランド	0.801
8	フィリピン	0.799
9	アイルランド	0.796
10	ナミビア	0.789

...
110	日本	0.662

男女共同参画セミナーを開催しました

「みんなで考えよう 男女がともに活躍できる社会に向けて」

9月28日(土)、社福祉センターにおいて、男女共同参画セミナー「みんなで考えよう 男女がともに活躍できる社会に向けて」を開催しました。

京都女子大学特命副学長 竹安栄子さんをお迎えし、家庭や地域・職場における男女の不平等感や性別役割分業の現状などについて講演をいただきました。その後、少人数のグループに分かれ、「女性が活躍できる地域づくり」をテーマにしたワークショップを行いました。日頃感じている矛盾や疑問を出し合い、誰もが暮らしやすい社会づくりに向けて活発な話し合いが行われました。



これからの男女共同参画事業のご案内 ~くわしくは広報かとうなどでお知らせします~

女性のためのチャレンジ相談

何かにチャレンジしようとする女性の悩み
にアドバイス。先着3名の個別相談。託児有。

とき：10月31日(木) 13:00~
ところ：社福祉センター 2階相談室



出張!!女性のための働き方セミナー

仕事を始めたい・復職したいなど、キャリア
アプランを描くお手伝い。定員8名。託児有。

とき：11月22日(金) 13:30~
ところ：社福祉センター 2階相談室

「出身国がちがっても」



滝野東小学校
六年 高見 太清

みなさんは、スポーツ選手を出身国でちがった見方をしたことがありますか。ぼくは、そのようなニュースを見ると心が痛みます。

ぼくはある日、ネットニュースを目にししました。それは、モンゴル出身の力士を悪く書き込みでした。今の相撲界の強い人たちは、ほとんどが外国人で、特にモンゴル力士が大勢います。モンゴル力士が大きく横に動いて、日本人力士に勝った相撲がありました。その相撲を見ていた人がその力士に対して「モンゴルに帰れ。」と言ったのです。ぼくもその相撲を見ていて、「残念。ちゃんとした相撲が見たかった。」と思ったのと同時に、「モンゴルに帰れ。」とまでそのモンゴル力士を批判するのはちがうと思います。

今の横綱は二人います。白鵬関と鶴竜関です。特に、白鵬関は、優勝記録も最多の大横綱です。しかし、たびたびニュースになり、相撲協会から注意を受けています。ぼくも外国人力士には、少しこわいイメージがあります。でも、その少しこわいイメージが差別につながっているかと思うと、とてもこわくなりました。しかし、実際に相撲観戦に行くと、サインを快く引き受けたり、ハイタッチしてくれたりします。実際は白鵬関に、こわいイメージがあったけれど、出待ちしていたぼくたちのために止まってサインしてくれました。その姿を見て、とても優しく、こわいというイメージは吹き飛びました。今の相撲界に、もしも外国人力士がいなかったら相撲の人気は落ちていたと思います。それぐらい大切な外国人力士をこれからも見ていきたいです。

大事なのは、出身国ではありません。「どれだけ日本が好きで、どれだけ相撲を愛して情熱があるか」「どれだけファンや観客を盛り上げようとする気持ちがあるか」だと思います。相撲に関わらず、どのスポーツもその考えは大事

です。外国人も日本人も同じ人間だから、同じように接したいです。相撲は国技です。国技だからと言って外国人を批判するのはちがうと思います。これからは、日本の伝統文化を守りつつ、広い心で外国人にも平等に接する人が増えてほしいです。ぼくも、誰にでも同じように接していこうと思います。



これらの作文は、8月31日に開催した「加東市人権啓発講演会」で発表されました。

加東市人権ジュニアリーダー学級

- ① 犯罪や非行からの立ち直り (市内学習1)
- ② 映画「ある精肉店のはなし」とお話 (市内学習2)
- ③ 大阪府堺市人権センター見学 (市外学習)



場所や自分の居場所が見つからない人にとって、親身になって自分に関わってくれられる人や、何でも話せる人がいてくれることは、とても心強いことなのだと思いました」と更生にとって大切なことを感じ取りました。



生徒は「だれでも間違いを犯してしまえば、その時の気分で行動するのではなく、本当に正しいかどうかをしっかりと考えてから行動したいと思いました」と自分の行動のあり方を考えたり、「自分の悩みを吐き出す

7月30日、73名の生徒が参加し、小野・加東保護区保護司会長の小林健さんによる「犯罪や非行からの立ち直り」と題しての学習を行いました。少年院の生活を介した映像や社会復帰をした人との関わりからの保護司としての経験を通して事例をお話いただきました。

① 犯罪や非行からの立ち直り

加東市では、平成23(2011)年度から市内中学生を対象に、部落差別の問題をはじめさまざまな人権問題について学習することで、豊かな人権感覚を培い、正しい判断力と行動力を身につける素地を養うことを目的として、人権ジュニアリーダー学級を行っています。今年度は、夏季休業中に、市内と市外において三回の学習を行いました。

「命をい

若いころの水平社宣言との出会い、屠畜作業や精肉店での仕事、そして現在の太鼓つくりと、自身の生きざまから、「命の大切さ」「差別のない社会をめざして」について、たくさんの写真をもとにお話いただきました。

8月7日には、51名の生徒が参加し、今年も大阪府貝塚市人権協会会長の北出昭さんをお招きして、北出さん一家で行っていた牛の屠畜を記録した映画「ある精肉店のはなし」(ダイジェスト版)を鑑賞し、お話を聞きました。



ある精肉店のはなし

② 映画とお話



また、差別を受けた体験談を聞き、「部落差別は自分にとって関係ないことだと思っていたけれど、そうではないのだなと思いました」「もっと勉強して、差別をなくす方法を考えたり、分かったことをいろいろな人に伝えられたりできたらいいなと思いました」と、ひとごとではなく、「わがごと」ととらえることができました。



8月2日には、44名の生徒が参加して、今年も大阪府堺市立人権センターを訪問しました。かつて差別された地区の当時の生活を再現した展示を見学し、歴史館職員から部落差別の歴史や現在の生活の様子について学習しました。

③ 大阪府堺市人権センター見学

んが部落差別を乗り越えられたのは、家族の絆や、人・動物・生きているものに対する感謝の心を持ち続けていたからと思つし、故郷を大切にし、差別をしなかつたからだと思つます」という感想を持ちました。



参加した生徒は「いつも食べているお肉は命をいただいていることは分かっていたけれど、最後の牛を割るシーンを見て、『命をい

小中学校人権教育講演会

子どもの頃から、人を思いやる心の大切さ、また、夢に向かって努力する大切さ等をテーマにしたお話を聞くことで、将来に希望を持って過ごしたり、自分や周りの人を大切に考えたりできる大人へ成長することを願って平成25年度から実施しています。



日...7月4日
会場...東条文化会館
対象...東条東・東条西小学校5・6年生
東条中学校全校生

講師...古田敦也さん(元プロ野球選手)
演題...「こもつながら支え合おう」



兵庫県立川西明峰高校卒業後、立命館大学、トヨタ自動車を経て、ヤクルトスワローズへ入団。打者として、プロ入り2年目に首位打者を獲得し、捕手としては、強肩と頭脳を生かした野球で、攻守ともにチームを牽引。5度のリーグ優勝と4度の日本一へと導く。その後、選手兼任監督に就任し、プレイングマネージャーとして、若手選手の育成、ファンサービスを重視して指揮を執っていたが、2007年、惜しまれながら現役引退と同時に、監督も退任。現在は、野球解説者、スポーツキャスター、タレント等、幅広くさまざまな分野で活躍されている。

講演では、小学校と中学校時代の意外なエピソードも交えながら、楽しい雰囲気でもちもたちを引きつけていました。家族をはじめ、仲間や指導者に支えられながら、今の自分があることを話し、子ども達に出会いと感謝の大切さを真剣に伝えていました。

生徒の感想...古田さんは、「可能性に挑戦する」と、おっしゃっていました。自分はこれまでできなかった、絶対無理だ、などと諦めてしまふのはよくないと分かりました。きつとできる、やってみよう、何事にも、自分の可能性を信じて挑戦していこうと思えました。そうすることで、自分はこんなにできるんだ、と発見することもあると思うし、苦手なこと・嫌いなことが、得意なこと・好きなことに変わるかもしれないからです。今日、古田さんの講演会に参加して、自分の生き方を考え直すことができました。貴重な体験をさせていただいて、ありがとうございました。

人権スキルアップ講座

テーマ「なぜ、いま人権教育か～人権教育の内容と方法～」

講師 姫路大学教育学部子ども未来学科教授 和田 幸司 さん

教職員は、学校におけるあらゆる教育を通して、子供たちの人権尊重の理念に関する理解を深めるといふ重要な役割を担っています。そのため、研修等を通じて人権意識の高揚を図ると共に、部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解決に積極的な役割を果たせるよう資質の向上に努めています。そうした中、若手教員を中心に部落差別の問題の指導に自信のない教員が増加しつつあります。その要因の一つは、部落差別の問題について十分な理解と確かな実践力があつた先輩教員から若手教員へ、理念や指導技術の継承がスムーズに行えなかつたことです。こうした状況を踏まえ、平成29年度から3年計画で経験年数15年未満の教職員を対象に、部落差別を中心とした人権教育の内容と方法について、姫路大学教育学部子ども未来学科教授の和田幸司先生をお招きして3回シリーズで研修を行いました。人権教育で何を学ばせるのか、具体的な指導方法を体験・共有するとともに、近世の身分制についても学び直し、なぜ部落差別を学習するのか考えました。

参加者の感想

身分と差別をしっかりと分けて考えていくと、被差別身分の人もその他の身分も同じように社会に属してきたのだということがはっきり分かりました。その整理をしたうえで、反差別の精神・心を育まれた児童・生徒が近世の差別を学んだとき、「ダメだ」「間違っている」と感じる瞬間が生まれるのではないかと思います。部落差別問題をさらに学びたいと思います。それは、部落差別問題もいじめも人種差別もその他のあらゆる差別に、同じような構図があるのではないかと考えるからです。部落差別問題について考え、教職に生かすことができる第1歩になる講義をありがとうございました。

加東市企業人権教育協議会の活動

『受け継ぐ、確かな実践、 進めよう、明るい職場づくり』



加東市企業人権教育協議会（企人協）では、会員各社が人権意識を高め、差別のない企業づくり、働きがいのある職場づくりを通じて、人権の尊重が企業文化として定着していくよう支援しています。

に於いて年会費を納入して、差別のない明るい社会づくりに貢献することを目的として自主的に事業を行っています。

◆本年度重点目標

- ①社員研修会を開催し、明るく温かい、潤いのある職場づくりを支援します。
- ②企業内研修会を推進し、豊かな人権感覚を培い、人権が尊重される職場づくりを支援します。
- ③会員企業間、企業と企人協事務局との連携を密にするとともに、研修資料の提供を積極的に行います。
- ④企業の社会的貢献の一環として市民公開講座を開催し、人権の尊重された社会の実現に寄与します。

◆本年度の取組

第1回社員研修会(5月16日)

DVD視聴

「わからないから、確かめ合おう」～コミュニケーション～」

ハラスメントや差別的取扱いなど、多くの日本企業が直面する可能性が高い6つのテーマ（ハラスメント、外国人、障がいのある人、LGBT、働き方、部落差別の問題）について、解決策を研修しました。



第2回社員研修会(7月18日)

「ワーク・ライフ・バランス基礎講座 2」

ひよこ仕事と生活センター 岩本 龍平さん

昨年度の基礎講座の復習をしながら、一歩踏み込んだ話を聞きました。ワーク・ライフ・バランス（WLB）の基本である自分らしく生きるために多様かつ柔軟な働き方の創造について学びました。また、最近クローズアップされている働き方改革とあわせ、働きやすい職場とWLBの実現に向けての示唆をいただきました。



第3回社員研修会(9月10日)

(市民公開講座)

「LGBTってなに？」

弁護士・関西大学人間健康学部客員教授 仲岡 しゅん さん

性的マイノリティの置かれている現状について、また、自身が男性として生まれながら女性へ転換された経緯についてお話いただきました。さらに、性的マイノリティの問題と他の差別問題との共通項から、差別の原因とその打開策についてのお話も聞きました。



第13期加東市民人権講座

各地区で人権教育を推進していただくためのリーダー養成を目指す加東市民人権講座は、今年で第13期を迎えます。

本年度は、地区から推薦された283名の受講生と市の幹部職員46名が、全3回の講座を受講しています。

3回の講座全てに出席された方、または本講座2回と補講の1回に出席された方には、修了証を交付しています。

第1回(9月23日)

「これからの人権教育・啓発の課題―部落問題をどう語り、伝えるのか―」

関西大学名誉教授 石元 清英さん

大学教授として教鞭をこられた経験から、大学生の持つ被差別部落に対する誤解や、そついった考えが生まれる人権教育の問題点について分かりやすくお話しいただきました。

また、「人権を学ぶ」ということは、良い人間関係を築き、自分の人生を豊かにすることに繋がるとお話しいただき、人権についてあらためて考える良い機会となりました。



《感想》

「人権を学ぶ」という事は、自分にも返ってくる「人権の大切さ」をあらためて認識する事が出来ました。普段あまりこのような講演を聞く事がないので少しでも勉強ができて良かったです。

(60代)

現在の大学生の皆様が、どんなイメージや誤解を持っておられるのかがとてもよく分かる資料でした。学校教育では、ただ「いけないこと」と教えていくのではなく内容をよく考え子供達が意見を出していけるような授業をしていくべきと思います。

(30代)

人権啓発講演会 8月31日開催

兼 加東市民人権講座(第2回)

笑いに包まれながら、男女の関係について考える講演会となりました。

- ◆プログラム
- ◆人権標語ポスター表彰式
- ◆人権作文の発表
- ◆講演「語る落語」～落語の女は、みな賢い～ 文化芸能評論家 木津川 計さん

まず、人権文化をすすめる市民運動人権標語・ポスターの表彰式を行い、6名の皆さんに市長から表彰状が授与されました。(作品はP4～7に掲載)

次に、市内の9つの小学校から代表で、小学校3人がそれぞれの経験を話して感じたことや考えたことを発表しました。

発表には、あいさつの大切さや、正しい思いをしている人を少なくしたい、誰にでも平等に接していきたいなど小学生たちの素直でまっすぐな気持ちが込められており、会場からは大きな拍手が送られました。(全文はP8～10に掲載)

講演では、文化芸能評論家として活躍中の木津川計さんに「語る落語」～落語の女は、みな賢い～」と題して、ご講演いただきました。女性と男性のそれぞれの漢字のつくりを比較することで、女性の立場がどういったものだったのかを説明されたあと、実際に落語をお話しされ、庶民の中では女性と男性の立場はどういうものだったのかお話しされました。



《感想》

かつて漢字は位の高い人が作ったものであり、そついった人々の中で女性がどういった立場にあったのかを知ることができました。また一方で庶民の文化を現した落語では、賢い女性ばかりであり、それは違う立場にあったのだということも理解できました。落語をとおして女性の人権について考える良い機会となりました。

◆こどもたちの、素直な目線の作文・標語・ポスターの発表に心を打たれました。(40代)



新着DVDのご紹介

兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会企画、東映株式会社制作の人権啓発DVD「君が、いるから」の紹介をします。

子どもや若者は社会の希望であり、未来をつくる存在です。

しかし、現実を顧みると、子どもや若者が被害者や加害者になる悲痛な事件が後を絶ちません。今この時も虐待やいじめなどにより人権を侵害され苦しんでいる子どもや若者が「すぐ隣りにいる」ことに、私たちは気づかなければなりません。

この作品は、母親からの心理的虐待に悩む若者「奏」が主人



公です。生き方を制限され、自分が愛されていると感じることができず自己肯定感の低い彼女も、コンビニエンスストアを舞台とした「ほんの小さな冒険」をきっかけに少しずつ変わっていきます。彼女は、そこで出会う人々とのふれあいを通して、新たな価値観に気づいていきます。ともに心を通わせ、信頼することの先に「希望」と「幸せ」があることを奏の成長を通して描きます。

子どもや若者が社会的に成長し自立していくために、人と人との関わり支えあひながら希望の種をまいていく、そんな社会の実現をめざす人権啓発ドラマです。

【学童の悩み】

○子どもの頃に心に傷を負い、孤立し、困難を抱えている若者が、些細なきっかけから視野を広げ、多様な視点や価値観を認め、一人一人の生き方を尊重するようになることについて考える。

○ライフステージの移行時や、それに伴う環境の変化で様々な問題に直面する子ども・若者が、家庭や学校・地域等における人とのつながりの中で、他者を信頼し、社会的な成長を遂げ自立していくことについて考える。

○児童虐待やいじめ等の発生予防として、地域での子育て支援や子どもの育成への地域の関わりについて考える。

人権協働課では、このほかにも人権に関する様々なDVDの貸出を行っております。詳しくは人権協働課までお問い合わせください。
☎0795-43-0544



(この記事は、ビデオ活用ガイドから転載しています) 令和元年度、各地区の住民学習会で鑑賞していただいています。



人権に関する悩みごとの相談先

差別、いじめ、いやがらせなど、人権に関する問題でお困りの場合は、お気軽にご相談ください。相談は無料で、秘密は固く守られます。

加東市マスコット 加東伝の助

電話で相談

- 法務局【いずれも平日8:30~17:15】
 - ・常設相談(みんなの人権110番) ☎0570-003-110
 - ・子どもの人権110番 ☎0120-007-110
 - ・女性の人権ホットライン ☎0570-070-810
- 公益財団法人 兵庫県人権啓発協会 ☎078-242-5355【平日9:00~17:00】
- 加東市人権協働課 ☎0795-43-0544【平日8:30~17:15】

面接で相談

- 法務局の常設相談【平日8:30~17:15】
法務局職員もしくは人権擁護委員が相談を受けています。
神戸地方法務局社支局 ☎0795-42-0201
- 人権相談【10:00~11:30】相談員は人権擁護委員です。
 - ・第2金曜日 はびねす滝野
 - ・第3金曜日 社福祉センター
 - ・第4金曜日 東条公民館
- 隣保館人権相談【毎週水曜日の14:00~16:00】
窪田隣保館において
人権協働課職員が相談を受けています。
加東市人権協働課 ☎0795-43-0544

